

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2397 号

Low dose mepolizumab is effective as an add-on therapy for treating long-lasting peripheral neuropathy in patients with eosinophilic granulomatosis with polyangiitis

低用量 mepolizumab は好酸球性多発血管炎性肉芽腫症患者の長期持続する末梢神経障害に対して有効である

中村 祐人 (なかむら ゆうと)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、既存治療に対して長期間にわたり抵抗性を示す好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA) の末梢神経症状を改善させる mepolizumab の有効性を初めて明らかにした前向き研究であり、臨床的に意義のある論文である。また、これまで EGPA の末梢神経障害に関してバイオマーカーは報告されていないが、本研究では末梢神経症状の視覚的アナログ尺度 (VAS) スコアの改善が尿中好酸球由来ニューロトキシン (EDN) の低下と有意に関連していることを示した。これまで EGPA の末梢神経障害の病態は十分に解明されておらず、T 細胞や好酸球、その他細胞毒性を持つ細胞の関与が報告されている。本研究において mepolizumab が末梢神経症状の改善を認め、好酸球脱顆粒蛋白である EDN が治療と関連して低下した結果は、mepolizumab が末梢神経障害への新たな治療選択となることを示しただけでなく、長期間持続する末梢神経障害の病態として好酸球性炎症が関連している可能性を示唆し、病態解明の一役を担うと考えられる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。